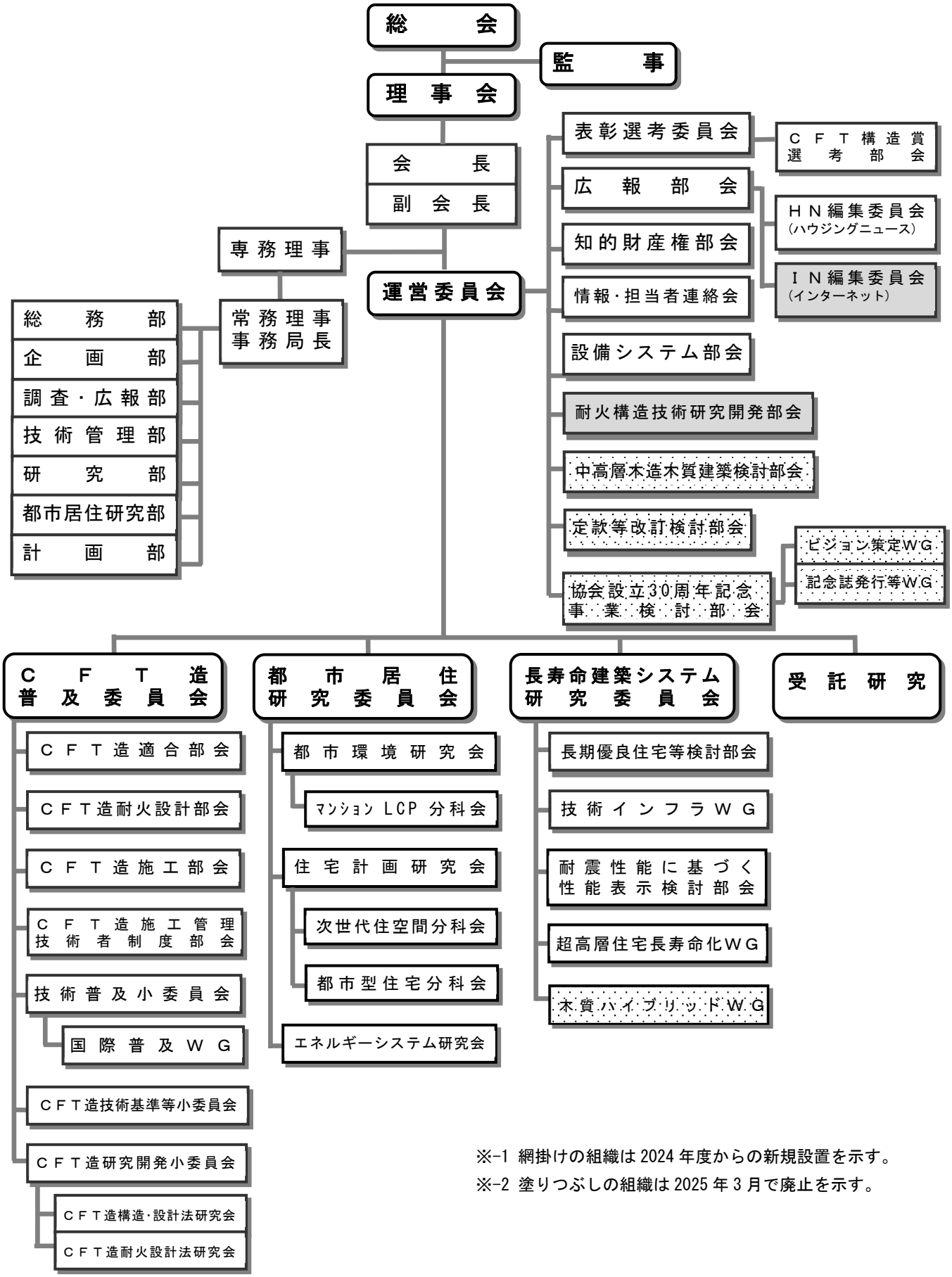
2024 年度事業報告

2024 年度協会組織

2025. 3. 31



※-1 網掛けの組織は 2024 年度からの新規設置を示す。

※-2 塗りつぶしの組織は 2025 年 3 月で廃止を示す。

総会・理事会

構　　成	〔総会〕指定代表者 66 名　　〔理事会〕理事 24 名、監事 2 名
開　　催	〔総会〕年 1 回：6/17　〔通常理事会〕年 2 回：5/23,11/27　〔臨時理事会〕6/17,3/28
年度事業報告	第 1 回理事会：2024 年 5 月 23 日(木) 開催 会　　場：貸会議室 AP 日本橋『Gルーム』／Teams 併用開催 出席役員数：理事20名(来場 14 名、Teams6 名) 監事 2 名(来場 2 名) 来賓挨拶：国土交通省 住宅局　山下住宅生産課長 議　　長：菅 順二 会長 議　　案： （決議事項）第 1 号議案 2023 年度事業報告承認の件 〃　第 2 号議案 2023 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等の件 〃　第 3 号議案 2024 年度事業計画承認の件 〃　第 4 号議案 2024 年度収支予算承認の件 〃　第 5 号議案 中高層木造木質建築の課題検討及び定款等の見直し検討の件 〃　第 6 号議案　2024 年度表彰者選考承認の件 〃　第 7 号議案　役員改選に伴う新役員候補者推薦の件 〃　第 8 号議案　事務局長就任承認の件 〃　第 9 号議案　2024 年度通常総会招集の件 （報告事項）第 10 号議案 職務執行状況報告の件 〃　第 11 号議案 会員の退会及び現況報告の件 審議の結果： ・決議事項はすべて満場一致で異議なく承認された。 ・第 2 号、第 7 号議案は通常総会に上程されることとなった。 ・第 1 号、第 3 号、第 4 号議案は通常総会で報告することとした。 ・第 5 号議案は 11 月の理事会で途中経過を報告することとした。 通常総会：2024 年 6 月 17 日(月) 開催 会　　場：ホテルグランドアーク半蔵門『光の間』 出席会員数：指定代表者 61 名（来場 25 名、委任状提出 36 名） 出席役員数：理事 16 名、監事 1 名 来賓挨拶：国土交通省 住宅局 住宅生産課 原田木造住宅振興室長 議　　長：菅 順二 会長 議　　案： （決議事項）第 1 号議案 2023 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等の承認の件 〃　第 2 号議案 任期満了に伴う役員選任の件 （報告事項）第 3 号議案 2023 年度事業報告の件 〃　第 4 号議案 2024 年度事業計画の件 〃　第 5 号議案 2024 年度収支予算の件 〃　第 6 号議案 会員の現況報告の件 審議の結果： ・決議事項議案はすべて満場一致で異議なく承認された。 ・第 2 号議案の承認により、新任 9 名、重任 15 名の理事、重任 2 名の監事が選任され、9 名の理事が退任した。

第１回臨時理事会：2024 年 6 月 17 日(月) 開催
会　　場：ホテルグランドアーク半蔵門『光の間』
出席役員数：理事 21 名、監事 1 名　(総会で選任された新役員体制で実施)
議　　案：(決議事項) 会長、副会長等の選定の件
議　　長：藤本 裕之 理事
審議の結果：議案は満場一致で異議なく承認され、新会長には藤本裕之理事(清水建設)が選定された。

2024 年度表彰式：2024 年 6 月 17 日(月) 開催
会　　場：ホテルグランドアーク半蔵門『光の間』
表　　彰：CFT 構造賞 12 作品、功績賞 2 件(3 組織)、功労賞 12 名
出　席　者：CFT 構造賞 40 名(建築主･設計者･施工者の代表者)
功績賞 3 名(3 組織の代表者各 1 名)、功労賞 8 名

・表彰式では、CFT 構造賞と功績賞には表彰状が、功労賞には楯が藤本会長から贈呈され、CFT 構造賞の記念品(メダル)は、後日送付した。
・表彰式の模様を表彰関係者控室内に設置したプロジェクターに投影し、懇親パーティーから出席する表彰関係者に視聴していただいた。

懇親パーティー：2024 年 6 月 17 日(月) 開催
会　　場：ホテルグランドアーク半蔵門『華の間』
出　席　者：226 名(協会関係者 104 名、来賓 122 名)
式　次　第：(1) 退 任 挨 拶･･････ 菅　 順二 前会長(竹中工務店)
(2) 就 任 挨 拶･･････ 藤本 裕之 新会長(清水建設)
(3) 来 賓 祝 辞･･････ 宿本 省吾 国土交通省 大臣官房審議官
(4) 乾杯ご発声･･････ 成田 潤也 住宅金融支援機構 理事
(5) 表彰者のご紹介･･･ ＊-1 に詳細記載
(6) 中　締　め･･････ 樫村 俊也 運営委員長

･表彰者のご紹介では、受賞者が 6 回に分けて登壇し(CFT 構造賞 4 組、功績賞 1 組、功労賞 1 組)、CFT 構造賞は「作品名」「建築主名」「設計者名」「施工者名」を、功績賞は「案件名」と「受賞組織名」を、功労賞は「受賞者名」を司会者が読み上げ、会場内に紹介した。
・総会、表彰式、懇親パーティーを撮影した写真を後日協会 HP に公開した。

第 2 回理事会：2024 年 11 月 27 日(水) 開催
会　　場：貸会議室 AP 虎ノ門『Ａルーム』　／Teams 併用開催
出席役員数：理事 18 名(来場 11 名、Teams7 名)
監事 2 名(来場　1 名、Teams1 名)
来 賓 挨 拶：国土交通省 住宅局 松野住宅生産課長
議　　長：藤本 裕之 会長
議　　案：
(決議事項) 第 1 号議案 2024 年度上半期事業報告及び下半期事業計画の件
〃　第 2 号議案 2024 年度上半期貸借対照表及び正味財産増減計算書等の報告並びに下半期収支予算の件
〃　第 3 号議案 会員入会承認の件
〃　第 4 号議案 協会設立 30 周年記念事業検討の件
(報告事項) 第 5 号議案 定款等改訂検討状況報告
〃　第 6 号議案 中高層木造木質建築検討状況報告
〃　第 7 号議案 職務執行状況報告
〃　第 8 号議案 会員現況報告

審議の結果：
- 決議事項はすべて満場一致で異議なく承認された。
- 第 3 号議案の承認により、(株)大城組が正会員となった。
- 報告事項の 4 議案は、報告後特に質問等は出なかった。

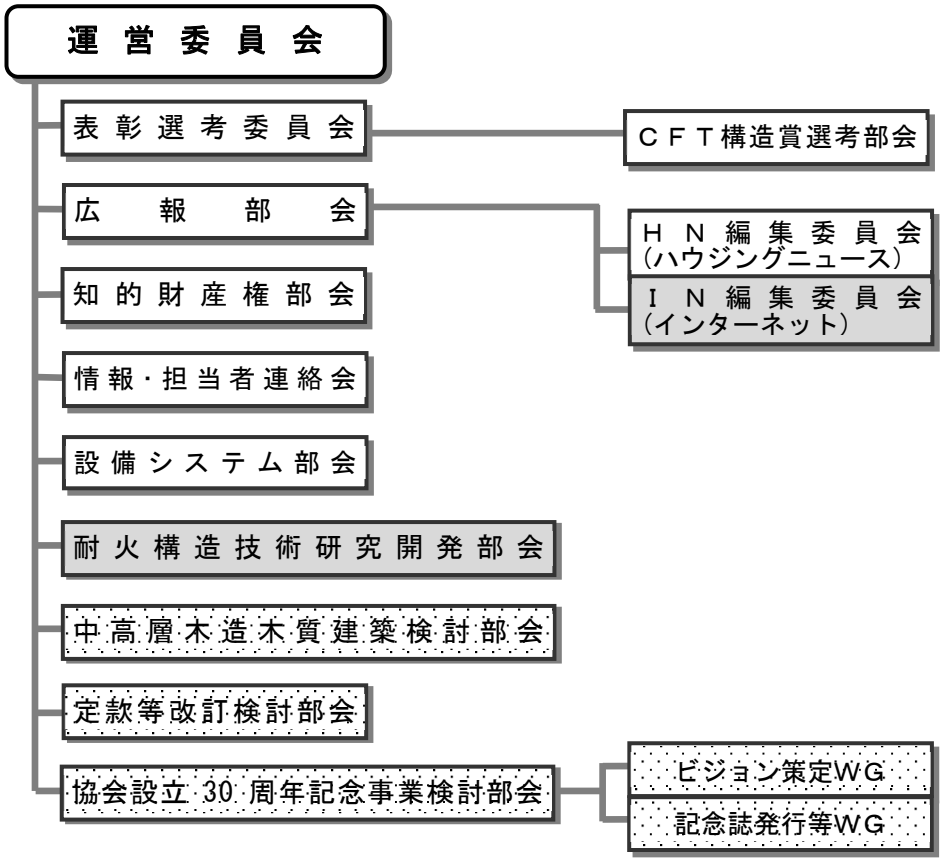
そ　の　他：
- 公務のためご来賓の松野住宅生産課長は到着が遅くなり、議案審議後に挨拶をいただいた。
- 理事会終了後の昼食の時間を使い、松野住宅生産課長との意見交換会を 40 分程度行った。

第 2 回臨時理事会：2025 年 3 月実施　3/7 に郵送及びメールにて案内送付

開 催 方 法：決議の省略の方法
提　案　者：藤本 裕之 会長
結　　果：3/19 までに提案者藤本会長を含む全理事から同意書を、全監事から確認書を受領し、議案は承認された。
提 案 事 項：第 1 号議案　2025 年度主要行事予定(案)承認の件
第 2 号議案　2025 年度暫定事業計画案(4-5 月)承認の件
第 3 号議案　2025 年度暫定収支予算案(4-5 月)承認の件
第 4 号議案　決議があった日を 2025 年 3 月 28 日とする

運営委員会等

組　　織



※-1 網掛けの組織は 2024 年度からの新規設置を示す。
※-2 塗りつぶしの組織は 2025 年 3 月で廃止を示す。

運営委員会　（6 月まで樫村委員長：竹中工務店、7 月から山田委員長：清水建設）	
構　　成	会長･副会長･理事会社：11 社 11 名 オブザーバー：3 名(国土交通省、住宅金融支援機構、都市再生機構)
年度事業計画	・理事会上程提案事項及びその他共通事項の審議･立案 ・各種委員会等の検討･審議結果並びに総務･人事･財務状況について把握･検討･承認
委員会開催	毎月 1 回開催(原則毎月第 1 水曜日)： 4/3, 5/8, 6/5, 7/3, 8/7, 9/4, 10/2, 11/6, 12/4, 1/8, 2/5, 3/5（12 回）
年度事業報告	※特別議案のみ記載 第 1 回運営委員会：2024 年 4 月 3 日（水）開催 （1）事務局新体制の説明－中西専務理事 （2）2023 年度第 2 回臨時理事会実施報告 （3）2024 年度組織の検討状況の報告－中西専務理事 （4）木造木質建築･高知視察の報告-樫村委員長 第 2 回運営委員会：2024 年 5 月 8 日（水）開催 （1）2024 年度第 1 回理事会を開催する件 ・理事会開催案内及び議事次第(案)の承認 ・通常総会、表彰式、懇親パーティー実施についての説明 ・理事会議案書内容についての承認 第 3 回運営委員会：2024 年 6 月 5 日（水）開催 （1）2024 年度第 1 回情報･担当者連絡会開催報告 （2）2024 年度第 1 回理事会開催報告 （3）2024 年度通常総会及び第 1 回臨時理事会議案、懇親パーティー開催概要(来賓、出席予定者等の説明) 第 4 回運営委員会：2024 年 7 月 3 日（水）開催 （1）2024 年度通常総会、第 1 回臨時理事会、懇親パーティー実施報告 （2）関連会社委員への補助事業M13 の依頼事項説明 第 6 回運営委員会：2024 年 9 月 4 日（水）開催 （1）設備システム部会主催の見学会の案内 （2）令和 5 年度優良木造建築物等整備推進事業「パッシブタウン第 5 期街区設計者講演会」の案内 第 7 回運営委員会：2024 年 10 月 2 日(水）開催 （2）2024 年度調査研究発表会への参加依頼 第 8 回運営委員会：2024 年 11 月 6 日(水）開催 （1）2024 年度第 2 回理事会を開催する件 ・理事会開催案内及び議事次第(案)の承認 ・理事会議案書内容についての承認 第 9 回運営委員会：2024 年 12 月 4 日(水）開催 （1）協会設立 30 周年記念事業検討部会の設置報告－山田委員長 （2）2024 年度第 2 回理事会開催報告 （3）CFT 改訂講習会の実施案の承認-遠藤部長

年度事業報告	第10回運営委員会：2025年1月8日(水) 開催 (1) 2025年度運営委員会開催日程(案)の承認 (2) 2025年度事業計画等作成スケジュールの説明 (3) 定款等変更案進捗報告－山田委員長、田原事務局長 第11回運営委員会：2025年2月5日(水) 開催 (1) 2025年度協会表彰(功績賞･功労賞)候補者推薦依頼 第12回運営委員会：2025年3月5日(水) 開催 (1)「ＩＮ編集委員会」及び「耐火構造技術研究開発部会」の廃止の承認 (2) 2024年度第2回臨時理事会を実施する件 ・実施案内及び提案書(案)について承認 ・提案書別添資料の承認
表彰選考委員会	**(6月まで 樫村委員長：竹中工務店、7月から山田委員長：清水建設)**
構成	正会員：3社(4名)
年度事業計画	2024年度CFT構造賞、功績賞、功労賞 受賞者の選考
委員会開催	年1回開催：5/7 (1回)
年度事業報告	１．2024年度表彰選考委員会(5/7開催) ・CFT構造賞選考部会及び各委員会委員長(運営、CFT造普及、都市居住、長寿命)より推薦のあった候補作品、組織、個人について選考を行い、以下のとおり理事会に上程した。 ・CFT構造賞：12作品(うち普及2作品)／功績賞：2件(3組織)／功労賞：14名 ２．2025年度の表彰推薦依頼 ・2/5の運営委員会にて2025年度表彰推薦依頼の件を諮り、各委員会委員長へ4/4を締切日として、「功績賞」及び「功労賞」候補者の推薦依頼を行った。
	CFT構造賞選考部会 (上田部会長：竹中工務店)
構成	正会員:5社(5名)
年度事業計画	2024年度CFT構造賞候補を選出し、表彰選考委員会に推薦
部会開催	年1回開催：4/25 (1回)
年度事業報告	１．2024年度CFT構造賞選考部会(4/25開催) ・応募作品の中から部会の推薦案を決定し、表彰選考委員会へ推薦した。 ２．2025年度CFT構造賞応募の案内 ・1/6に2025年度応募概要を協会HPに掲載するとともに、会員窓口担当者宛にメールで案内した。
広報部会	**(山田部会長：東京ガス)**
構成	正会員：10社(10名)，オブザーバー：1名
年度事業計画	2024年度広報活動全般の企画、実施の確認と承認 ・広報部会の開催 ・アーバン･ハウジング･フォーラムの開催 ・調査研究発表会の開催 ・ハウジングニュース編集委員会の活動の確認と承認 ・インターネット編集委員会の活動と承認 ・その他　関連団体活動への対応等

部　会　開　催	年3回開催：4/15,7/26,10/18（3回）
年度事業報告	1．広報部会 第1回広報部会：2024年4月15日(月) 開催 (1) 2024年度活動計画の確認 (2) 新都市ハウジングニュース状況報告と討議 (3) アーバン･ハウジング･フォーラムの開催計画の報告 ・見学会／講演会の案を作成し部会委員の意見を確認することとした。 (4) 調査研究発表会開催の討議 ・10月中旬～11月に清水建設(株)のホールにて開催することを確認した。 第2回広報部会：2024年7月26日(金) 開催 (1) 新都市ハウジングニュース状況報告と討議 ・季節感に合わせるため発行月を1ヶ月前倒しすることを決定した。 (2) アーバン･ハウジング･フォーラムの開催計画の報告 ・第1回は「見学会」として開催し見学先を『リビングデザインセンターOZONE』とすること、今後は各委員が持ち回りで企画を担当することを決定した。 (3) 調査研究発表会開催の討議(開催日及び会場の決定) ・10/25(金) 清水建設(株)『シミズホール』にて開催することを決定した。 第3回広報部会：2024年10月18日(金) 開催 (1) 2024年度上半期活動報告と下半期活動計画の確認 (2) 新都市ハウジングニュース状況報告と討議 (3) アーバン･ハウジング･フォーラムについて ・第1回の開催日及び実施内容の確認、第2回の企画内容の検討(2025年2月に「講演会」として開催)と講師の選定を行うこととした。 ・2025年度の開催回数(3回)及び各回の担当者を決定した。 (4) 調査研究発表会開催の討議 ・調査研究発表会のプログラムと参加申込人数の状況を確認した。 2．アーバン･ハウジング･フォーラム 第1回(見学会)：2024年10月22日(火) 開催 見学先：『リビングデザインセンターOZONE』 内　容：「Carbon Stock Furniture」に関する説明会と『MOKUNAVI』と『MOCTION』の見学 参加者：9名 第2回(講演会)：2025年2月26日(水)　協会大会議室／Teams併用開催 講　師：国土交通省住宅局参事官(建築企画担当)付 係長　佐々木 雄河 様 テーマ：『省エネ性能表示と建築物のライフサイクルカーボン削減に向けた取り組み』 参加者：〔来場参加〕12名、〔Teams参加者〕5名 3．調査研究発表会 開催日時：2024年10月25日(金) 14:00～17:30 会　　場：清水建設(株)『シミズホール』 参　加　者：122名 プログラム： (1) 特別講演「大地震に備える」 国土交通省 住宅局 建築指導課　建築物事故調査･防災対策室長 松井 康治 様

年度事業報告	(2)「本年度のCFT構造賞について」 (一社)新都市ハウジング協会　専務理事 中西 浩 (3)「CFT構造賞(普及)受賞作品の紹介 『髙松コンストラクショングループ東京本社ビル』」 青木あすなろ建設(株)　建築生産本部設計部　河添 栄作 様 (4) 各委員会からの活動成果報告 〈CFT造普及委員会〉 ・『コンクリート充填鋼管(CFT)造 技術基準・同解説の運用及び計算例等』の改訂について 〈都市居住研究委員会〉 ・都市型住宅分科会　・エネルギーシステム研究会 〈長寿命建築システム研究委員会〉 ・住棟インフラWG　・技術インフラWG　・超高層住宅長寿命化WG ・混合木造WG ※発表会終了後に同ビル内の会場にて会員交流会を実施(18:00～19:30) (参加者：47名)
	ハウジングニュース編集委員会　(荒城委員長：鹿島建設)
構成	正会員：9社(9名)
年度事業計画	新都市ハウジングニュースの企画・編集・発行（年4回発行）
委員会開催	毎月1回開催： 4/15,5/20,6/21,7/26,8/23,9/20,10/18,11/22,12/20,1/24,2/21,3/14（12回）
年度事業報告	新都市ハウジングニュースの企画・編集・発行 (1) Vol.112 春号(5月27日 発行済) テーマ　:「新しい素材が拓くこれからの建築」 巻頭論文:「持続可能な建設に向けた新材料の研究」 東京大学 生産技術研究所 人間・社会系部門　酒井 雄也 准教授 (2) Vol.113 夏号(8月23日 発行済) テーマ　:「木造・木質建築の可能性と未来」 巻頭論文:「脱炭素社会に向けた木造建築の在り方」 名古屋大学 大学院生命農学研究科　山﨑 真理子 教授 (3) Vol.114 秋号(11月22日 発行済) テーマ　:「大地震に備える」 巻頭論文:「複合災害と巨大都市における建築的対策」 工学院大学 建築学部 まちづくり学科　久田 嘉章 教授 (4) Vol.115 冬号(1月20日 発行済) テーマ　:「新都市ハウジング協会活動報告」
	インターネット編集委員会　(猪里委員長：大成建設)
構成	正会員：4社(4名)
年度事業計画	・ホームページの運営・情報更新 ・ホームページの改良検討(表紙の写真等更新、コンテンツの収集・整理他) ・メールマガジンの配信(原則年4回)、運営方法の検討 ・ホームページ閲覧促進のためページ構成改良の検討　等

委員会開催	年3回開催：6/21,12/20（2回）
年度事業報告	第1回インターネット編集委員会：2024年6月21日(金) 開催 (1) ホームページの運営･情報更新 ・解析レポートによるHPのアクセス状況の確認を行った。 (2) ホームページの改良検討 ・協会活動記録の更新を行った。 ・CFT構造賞受賞作品写真の更新を行った。 第2回インターネット編集委員会：2024年12月20日(金) 開催 (1) インターネット編集委員会の今後の活動の方向性について討議 ・委員長と事務局で討議を行い、廃止の方向で運営委員会に諮ることとした。 ・本委員会の分掌業務は、広報部会で所管する。 ◎2025年3月の運営委員会に廃止案を諮り承認されたことにより、2024年度末を以って当委員会の活動を終了した。
知的財産権部会	**（山川部会長：清水建設）**
構成	正会員：8社(8名)
年度事業計画	テーマ：『知的財産権に関わる判例･論考等の輪講』 ～新都市ハウジング協会の活動で生じ得る知的財産権に関するもの～ 主　旨：2022 年度下期からの継続テーマ。部会メンバーが当番制で個別テーマを持ち寄り、討議を通して全メンバーのレベルアップと｢知｣の共有化を図る。
部会開催	年4回程度開催：6/20,9/26,12/19,3/17（4回）
年度事業報告	第1回部会：2024年6月20日(木) 開催 ・①｢OSSライセンス遵守のための基礎知識｣、②｢不実施機関を含む共同研究における知的財産権共有問題｣をテーマとし、内容の確認と議論を行った。 第2回部会：2024年9月26日(木) 開催 ・①｢仲裁制度について｣、②｢知財と国際標準化に関して｣をテーマとし、内容確認と議論を行った。 第3回部会：2024年12月19日(木) 開催 ・『CFT構造賞応募要領』について議論し、応募要領の改訂と『CFT構造賞応募申込図書等に関わる著作権の取扱い同意書』の作成を行った。 第4回部会：2025年3月17日(月) 開催 ・①｢宇宙法｣、②｢技術ノウハウライセンスにおける技術ノウハウ特定の課題と対応の一検討｣をテーマとし、内容の確認と議論を行った。
情報･担当者連絡会	
構成	正会員：66社(66名)
年度事業計画	会員への理事会議案等の説明及び協会活動についての意見交換他
連絡会開催	年2回実施：5/19,11/21　　※第1回は実開催、第2回は資料をHPに公開
年度事業報告	(1) 第1回情報･担当者連絡会(5/17開催)　協会会議室／Teams併用 出席者：22名（うち来場6名、Teams16名） 内　容：(1) 2024年度第1回理事会議案書の説明及び質疑 (2) 2024年度主要行事予定の説明 (3) 通常総会･懇親パーティー開催についての説明

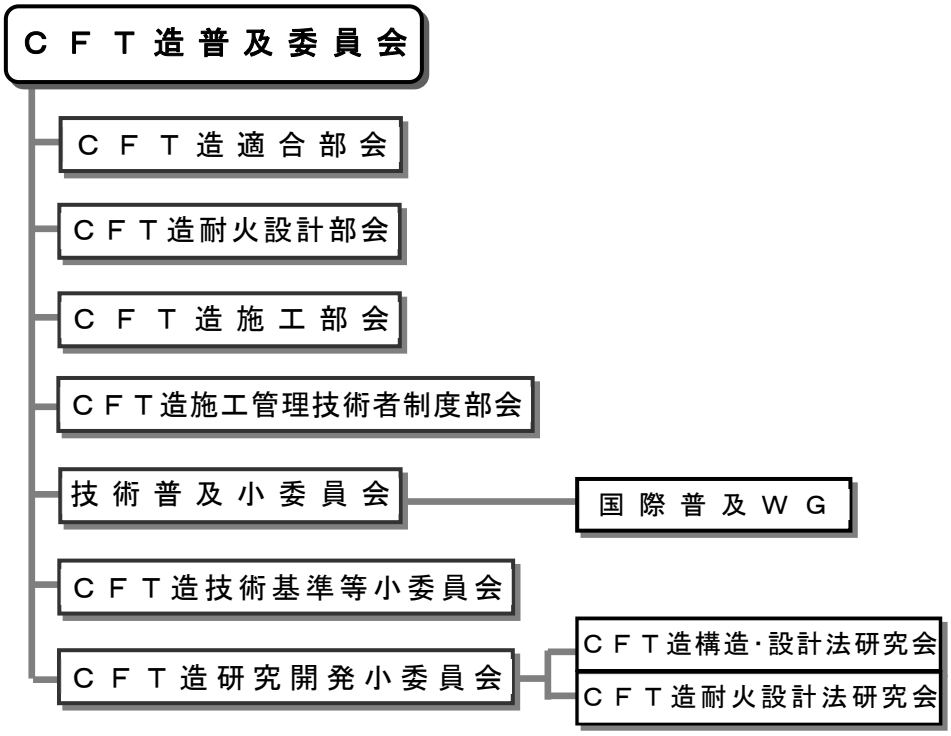
年度事業報告	(2) 第2回情報･担当者連絡会資料配布(11/21) ・2024 年度第 2 回理事会議案書綴りを協会ホームページに公開し、掲載ページの URL を担当者にメールで案内した。
設備システム部会　(大西部会長：大阪ガス)	
構成	正会員：6 社(6 名)、オブザーバー：1 名
年度事業計画	良好な都市居住環境に資する建築設備･施設･内外装等に関し、見学会を企画し、見学会を通じて情報収集と発信を行う。 ・協会活動の一端として、見学内容に関連する委員会等への案内を行い、得られた情報を委員会活動に生かす。
部会開催	年 3 回開催：6/7,10/31-11/1,2/7 (3 回)
年度事業報告	第 1 回部会：2024 年 6 月 7 日(金) 開催 (1) 2024 年度の活動方針について討議 (2) 委員名簿の確認実施 (3) 見学先候補及び見学予定日について検討を実施 ・広島エリアを軸として候補地を選定することを協議 ・見学内容により他の部会等に参加者を募る事がある事を説明 第 2 回部会･見学会：2024 年 10 月 31 日(木)～11 月 1 日(金) 開催 (部　会)・2024 年下半期見学会予定のスケジュールの確認 ・2025 年度見学会候補地の選定 (見学会)・広島ゲートパーク、エディオンピースウイング広島、基町アパートの見学を行った。 第 3 回部会･見学会：2025 年 2 月 7 日(金) 開催 (部　会)・川崎、羽田エリア見学会の状況報告、次年度計画について協議 (見学会)・川崎スカイフロント東急 REI ホテル、羽田イノベーションシティの見学会を実施。ホテル内植物工場、羽田自動運行バス等の見学を行った。
耐火構造技術研究開発部会　(宮本部会長：鹿島建設)	
構成	正会員：15 社(16 名)、オブザーバー：7 名
年度事業計画	2022 年度よりコンソーシアムを立ち上げ、活動期間を 3 年間とする。合成耐火被覆鉄骨造(柱･梁)の耐火構造技術の研究開発を行う。 1．2024 年度の活動計画を立案する。 2．加熱予備試験を実施し、性能評価試験の仕様を決定する。 3．順次、性能評価試験を実施し、耐火構造の大臣認定を取得する。
部会開催	月例開催：4/5,5/10,6/7,7/4,8/2,9/6,10/4,10/31,12/6,1/9,2/7,3/7 (12 回)
年度事業報告	1．2024 年度活動計画を立案 2．加熱予備試験を実施し、性能評価試験の仕様を決定 ・ECP 合成耐火鋼管柱の載荷加熱予備実験用試験体の製作 ・ECP 合成耐火鋼管柱の載荷加熱予備実験を実施 3．性能評価試験を実施し、耐火構造の大臣認定を取得 ・ALC 合成耐火鉄骨梁の性能評価用試験体の製作、性能評価試験の受験、大臣認定申請 ・ALC 合成耐火鋼管柱の性能評価用試験体の製作、性能評価試験の受験 ・ALC 合成耐火 CFT 造柱の性能評価用試験体の製作 ・ALC 合成耐火鋼管柱について大臣認定申請

	・ALC 合成耐火 CFT 造柱について性能評価試験の受験、大臣認定申請 ・ECP 合成耐火鋼管柱の性能評価用試験体の製作、性能評価試験の受験、大臣認定申請 ４．（追加）2025 年度の共同研究のテーマ･内容を議論 ◎コンソーシアムの活動終了に伴い、2025 年 3 月の運営委員会に廃止案を諮り承認されたことにより、2024 年度末を以って当委員会の活動を終了した。
中高層木造木質建築検討部会　（五十田部会長：京都大学 教授）	
構　　成	正会員：15 社(16 名)、オブザーバー：2 名、学識経験者：1 名
年度事業計画	中高層建築物への木質材料利用を促進するため、今後の産官学の研究協力体制による解決や、法令改正による解決に資するような、技術的･社会システム的な、協調領域における共通課題を検討する。
部会開催	年 6 回程度開催：6/14,7/12,9/13,10/29,12/16,2/4,3/10（7 回）
年度事業報告	・中高層木造木質建築(木質ハイブリッド架構を含む)について、委員各社から現状の課題を持ち寄り、コスト、防耐火、構造などのカテゴリー別に整理した。 ・課題を解決する具体的な方法(既存の研究開発成果の周知、技術研究開発による解決、法改正による解決)等を、協会として取り組む内容や方向性を検討した。 ・(一財)日本建築センターからの依頼により、IHF 国際会議 2024 での同センター出展ブースにおいて、委員各社から収集した木造木質建築の取組を紹介する動画(英語版)を映した。 ・木材活用を推進する中高層建築モデルに関して参考事例をもとに、意見交換し、今後の方向性等を検討した。
定款等改訂検討部会　（山田部会長：清水建設）	
構　　成	正会員：5 社(5 名)
年度事業計画	当協会の目的、事業範囲、会員等、定款及び関係規程等の見直し案の検討をする。
部会開催	8/7,9/4,10/2,11/6,12/4,1/8（6 回）
年度事業報告	・定款および関係諸規定の見直し案を策定 ・第 10 回運営委員会(1/7)で定款変更案及び規則･規程等構成改正案を審議 ・2025 年 3 月に定款変更案と解説を理事･監事及び窓口担当者へ送付の上、意見照会（修正･反対意見なし）
協会設立 30 周年事業検討部会　（山田部会長：清水建設）	
構　　成	正会員：13 社(17 名)、個人会員：1 名
年度事業計画	・記念行事の主要事項に関する企画 ・ＷＧ報告 ・情報･意見交換 ・全体予算検討等
部会開催	毎月 1 回開催：1/28,2/25,3/25（3 回）
年度事業報告	第 1 回部会：2025 年 1 月 28 日(火) 開催 ・部会の傘下に「ビジョン策定ＷＧ」及び「記念誌発行等ＷＧ」を設置することを決定した。

年度事業報告	・記念誌は新都市ハウジングニュースの特別号／春･夏合併号とし、2026 年 6 月発行、総会の来場者への配布を目指すこととなった。 第 2 回部会：2025 年 2 月 25 日(水) 開催 ・記念行事(式典･パーティ)の企画･実施、ビジョン見直し、特別講演の企画･実施、ホームページ見直し、記念誌編集･発行等について討議を行った。 第 3 回部会：2025 年 3 月 25 日(火) 開催 ・中長期ビジョンの策定にあわせて、組織体制の見直しを実施する。(2027 年度から新体制) ・記念式典、記念講演、パーティーは、2026 年度通常総会にあわせ、2026 年 6 月 19 日(金)に『ホテルグランドアーク半蔵門』にて実施する。(会場予約済) ・2026 年度の調査研究発表会にて、30 周年記念事業の一環として「特別講演」を実施する。開催時期については今後検討する。
	ビジョン策定ＷＧ　(山田主査：清水建設)
構成	正会員:6 社(6 名)
年度事業計画	・協会ビジョンの見直し ・アンケート調査 ・特別講演企画･検討
ＷＧ開催	毎月 1 回開催：3/5 (1 回)
年度事業報告	第 1 回ＷＧ：2025 年 3 月 5 日(水) 開催 ・見直した定款の目的、事業をもとに、概ね今後 10 年のビジョンを策定することを決定。 ・中長期ビジョンの策定にあたり、協会組織の委員及び窓口担当者へのアンケート調査を実施することを決定。 ・ビジョン改訂のスケジュールは、2025 年 10 月に中間報告を行い、2026 年 3 月の理事会に諮るため 2026 年 2 月までには決定することとした。
	記念誌発行等ＷＧ（山田主査：東京ガス）
構成	正会員:5 社(7 名)、個人会員：1 名
年度事業計画	・30 周年記念誌の編集、企画･検討
ＷＧ開催	開催なし
年度事業報告	活動報告なし

ＣＦＴ造普及委員会等

組　　織



ＣＦＴ造普及委員会　（中尾委員長：日本設計）

構　　成	正会員:5 社(7 名)、オブザーバー：1 名
年度事業計画	CFT 造の普及･技術指導･研究開発事業の展開を図る。 １．CFT 造の普及事業 (1) 施工技術習得指導の実施（技術普及小委員会） (2) 施工管理技術者認定試験及び更新講習の実施 (CFT 造施工部会、CFT 造施工管理技術者制度部会) (3) 施工管理技術者制度及び施工技術ランク制度のフォロー (CFT 造施工部会、技術普及小委員会) (4) 技術基準･技術指針等の改訂 (技術基準等小委員会、CFT 造施工部会、CFT 造耐火設計部会) (5) 設計･施工技術者への参考資料の提供 (技術基準等小委員会、CFT 造施工部会、CFT 造耐火設計部会) (6) CFT 造建物の普及状況の調査（CFT 造建物実績調査アンケートの実施) (7) CFT 造に係る制度の整備･改善の検討 (8) 行政、確認検査機関等との連携の検討 (9) CFT 造技術の海外展開の検討（技術普及小委員会) ２．CFT 造の技術指導事業 (1) 指針適合の技術指導（CFT 造適合部会) (2) 施工計画の技術指導（CFT 造施工部会) (3) 耐火設計の技術指導（CFT 造耐火設計部会) ３．CFT 造関連の研究開発事業（CFT 造研究開発小委員会) (1) 必要な開発課題の抽出 (2) 研究会の編成と柔軟な研究開発の推進 (3) 研究開発成果の事業への反映

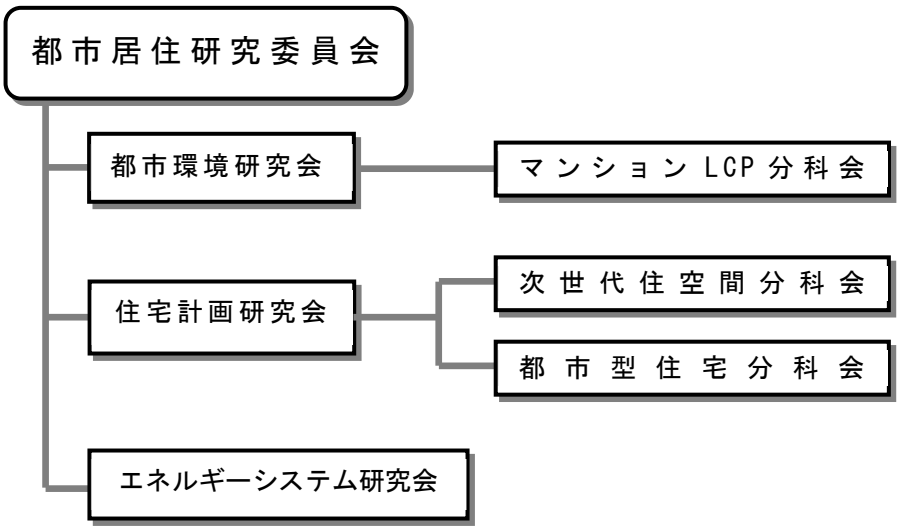
委員会開催	毎月１回開催（原則第２水曜日）： 4/10,5/15,6/12,7/10,8/21,9/11,10/9,11/13,12/18,1/15,2/12,3/12（12 回）
年度事業報告	各部会･小委員会･研究会の活動をフォローした。 １．普及事業の推進 ・施工技術習得指導の実施フォロー〔承認〕 ・CFT 造施工管理技術者更新講習の実施フォロー〔承認〕 ・CFT 造施工管理技術者認定試験問題〔承認〕 ・CFT 造施工管理技術者認定試験の実施(10/11) 及び合格者の承認 ・「CFT 造技術基準･技術指針」改訂に関して、技術基準等小委員会及び施工部会の実施フォロー ・CFT 造建物実績調査アンケートの実施･集計･HP アップのフォロー ・施工管理技術者制度及び施工技術ランク制度のフォロー ２．技術指導事業の推進 ・施工計画の技術指導フォロー〔終了報告の確認〕 ・指針適合･耐火設計･技術習得指導の終了報告の確認 ３．研究開発事業の推進 ・研究開発小委員会のフォロー〔方向性･進捗の確認〕 ・CFT 造構造･設計法研究会の実施計画と進捗フォロー ・CFT 造耐火設計法研究会の実施計画と進捗フォロー
ＣＦＴ造適合部会（淺岡部会長：鹿島建設）	
構成	正会員：2 社(3 名)
年度事業計画	CFT 造技術指針に基づき設計された CFT 造柱及び関連部位について技術指導を行う。 ・申請建物の指針適合技術指導の実施、普及委員会への報告
部会開催	適宜開催：4/4, 3/4（2 回）
年度事業報告	指針適合技術指導　　受付 1 件／終了 1 件
ＣＦＴ造耐火設計部会（丹羽部会長：大林組）	
構成	正会員：12 社(13 名)、オブザーバー：3 名
年度事業計画	CFT 造耐火設計指針に基づき設計された CFT 造柱及び関連部位について技術指導を行う。また、CFT 造耐火設計関連技術資料を継続的に整備する。 １．申請建物の耐火設計に関する技術指導及び普及委員会への報告 ２．「CFT 造耐火設計指針」のフォロー･整備 ３．普及のための技術資料の整備
部会開催	適宜開催：開催なし　技術指導の発生時及び CFT 造耐火設計法研究会と同時開催
年度事業報告	１．耐火設計技術指導　　受付 0 件／終了 0 件 耐火設計指針使用許諾　　受付 0 件／許諾 0 件 ２．CFT 造耐火設計法研究会への協力（会議参加）

ＣＦＴ造施工部会　（淺岡部会長：鹿島建設）	
構　　成	正会員:11 社(12 名）、オブザーバー：1 名
年度事業計画	CFT 造技術指針に基づき作成された施工計画書の技術指導及び CFT 造施工管理技術者への技術講習を行う。また、CFT 造施工関連の制度のフォロー･整備及び技術資料の整備を継続的に実施する。 １．申請建物の施工計画に関する技術指導、普及委員会への報告 ２．施工管理技術者制度･施工ランク制度のフォロー･整備 ３．講習会の開催 (1) 施工管理技術者更新講習（7/23,8/2　東京） (2) 施工管理技術者認定試験における講習（10/11　東京） ４．「CFT 造技術指針」等のフォロー･整備･改訂 ・「CFT 造技術指針（改訂版）」改訂講習会の準備及び実施 ５．普及のための技術資料の整備
部会開催	毎月 2 回開催(原則第 2,4 月曜日)： 4/8,4/22,5/14,5/27,6/10,6/24,7/8,7/17,7/22,8/26,9/9,9/24,10/15,10/28, 11/11,11/25,12/9,1/10,1/27,2/10,2/25,3/10,3/24　(23 回)
年度事業報告	１．施工計画技術指導の実施　受付 14 件／終了 15 件（前年度受付 1 件を含む） ２．施工技術ランク制度の運用　受付 2 件／認定 2 件（技術普及小委員会と合同） ３．講習会の開催 ・施工管理技術者更新講習を実施（7/23,8/2） 会場：AP 日本橋　更新者：518 名 ・施工管理技術者認定試験における試験前講習を実施（10/11） 会場：AP 日本橋　受講者：380 名 ４．「CFT 造技術指針」等のフォロー･整備･改訂 ・改訂講習会の説明資料作成 ・改訂講習会の準備及び実施（動画配信） ５．普及のための技術資料の整備 ・技術指導申請書式(記入例)の改訂、改訂指針の正誤表の HP 公開
ＣＦＴ造施工管理技術者制度部会　（井上部会長：竹中工務店）	
構　　成	正会員:6 社(7 名)
年度事業計画	CFT 造施工管理技術者認定試験を実施する。 １．資格登録のための認定試験の実施 (1) 試験問題の作成及び認定試験の準備 (2) 認定試験の実施(10/11) (3) 答案の採点･合格点･合格者数を決定し、普及委員会へ報告
部会開催	年 11 回開催(認定試験日も含む)： 3/29, 5/24, 6/14, 7/5, 7/25, 10/11, 10/18, 10/24, 11/1 (9 回)
年度事業報告	１．資格登録のための認定試験の実施 (1) 試験問題の作成及び認定試験の準備 (2) 施工管理技術者認定試験の実施(10/11) 会場：AP 日本橋　受験者：380 名(受付 394 名) (3) 採点、合格者の決定及び普及委員会への報告　264 名合格

技術普及小委員会　（神代委員長：大林組）	
構　　成	正会員：2 社(2 名)、個人会員：1 名
年度事業計画	中堅建設業者に対する施工技術習得指導 １．未経験企業等に対する CFT 造施工技術の習得指導 ２．技術ランクに応じた CFT 造施工技術の習得指導
委員会開催	指導進捗･相談に応じて適宜開催： 6/19(現地),9/4,10/1,12/17(現地),12/26,2/19･20(現地),3/11（8 回）
年度事業報告	１．受付 1 件／終了 1 件 ２．受付 1 件／終了 0 件／審議 2 件
	国際普及ＷＧ　（香田主査：清水建設）
構　　成	正会員：7 社(8 名)
年度事業計画	CFT 造技術の海外展開を検討する。 ・ISO 規準化への対応、国際普及のための活動
Ｗ　Ｇ　開　催	適宜開催：開催なし
年度事業報告	CFT 造技術の海外展開 ・CFT 造の ISO 基準案への対応 ・同分野 ISO の日本側窓口である日本コンクリート工学会をサポート
ＣＦＴ造技術基準等小委員会　（出雲委員長：大成建設）	
構　　成	正会員：7 社(10 名)、協力委員：1 名
年度事業計画	CFT 造関連技術資料を継続的に整備する。 １．「CFT 造技術指針」等の運用･整備･改訂 ・「CFT 造技術指針(改訂版)」改訂講習会の準備及び実施 ２．普及のための技術資料の整備
小委員会開催	適宜開催：4/19,5/24,6/28,7/24,8/22,9/20,10/23,11/29,1/24,3/14（10 回）
年度事業報告	１．「CFT 造技術指針」等の運用･整備･改訂 ・改訂講習会の説明資料作成 ・改訂講習会の実施（動画配信） ２．普及のための技術資料の整備 ・正誤表の HP 公開
ＣＦＴ造研究開発小委員会　（福元委員長：鹿島建設）	
構　　成	正会員:4 社(4 名)
年度事業計画	傘下の CFT 造構造･設計法研究会、CFT 造耐火設計法研究会の目標並びに進捗の確認 １．CFT 造に係わる研究開発課題の抽出 ２．CFT 造に係わる研究開発の推進 ３．研究開発成果の活用
小委員会開催	年 4 回開催：6/12,9/11,12/18,3/12　（4 回）
年度事業報告	傘下の 2 研究会の目標並びに進捗を確認

	ＣＦＴ造構造･設計法研究会（5 月まで中村主査：大成建設、6 月から平田主査：大林組）
構　　成	正会員：15 社(16 名)、オブザーバー1 名
年度事業計画	CFT 造に係わる研究開発を実施し、技術指針等への展開を図る。 １．CFT 造に係わる研究開発課題の抽出 ２．CFT 造に係わる研究開発の推進
研究会開催	適宜開催：4/25,6/4,7/18,10/15,12/11,1/30,3/6（7 回）
年度事業報告	１．CFT 造に係わる研究開発課題の抽出 ・新たな研究開発課題の検討･抽出 ２．CFT 造に係わる研究開発の推進 ・「不均等骨組みにおける CFT 柱の座屈長さ簡易評価手法の理論的背景と評価ツールの開発」に関するＷＧ1(理論展開･ソフト開発)、ＷＧ2(境界条件)、ＷＧ3(精度検証)の成果報告書の作成と公開に向けた準備
	ＣＦＴ造耐火設計法研究会　（西村主査：竹中工務店）
構　　成	正会員：14 社(21 名)、オブザーバー2 名
年度事業計画	CFT 造に係わる研究開発を実施し、技術指針等への展開を図る。 １．CFT 造に係わる研究開発課題の抽出 ２．CFT 造に係わる研究開発の推進
研究会開催	適宜開催：5/29,7/29, 9/30,11/27,2/14（5 回）
年度事業報告	１．CFT 造に係わる研究開発課題の抽出 ・新たな研究開発課題の検討･抽出 ２．CFT 造に係わる研究開発の推進 ・「CFT 造耐火設計指針」の運用基準見直しに関して、実験ＷＧと解析ＷＧに分かれて活動

都市居住研究委員会等

組織	

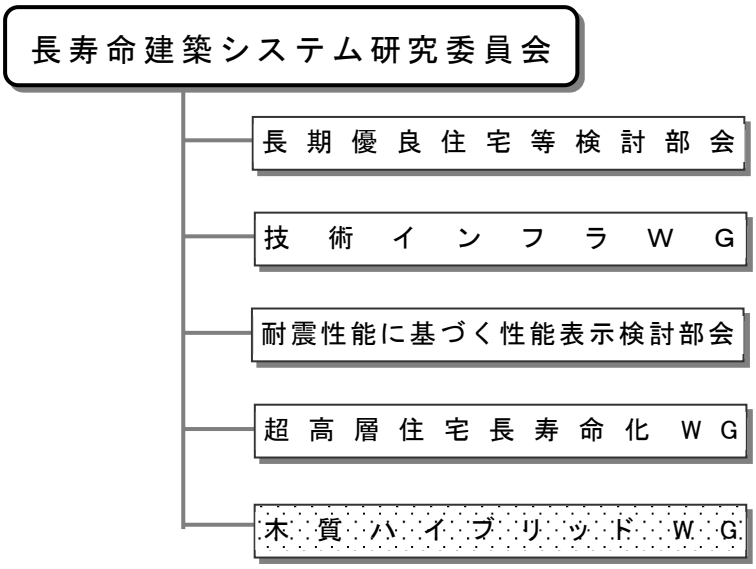
都市居住研究委員会 （6 月まで篠崎委員長：竹中工務店、7 月から井上委員長：竹中工務店）

構成	正会員：8 社(8 名)
年度事業計画	環境にやさしく安全で魅力的な都市型集合住宅の実現に資する調査研究を通して、21 世紀における良好な都市居住環境の形成を促進する。 ・都市居住関連調査研究の推進 ・調査研究成果の普及･PR の推進 ・今後の新規テーマの検討
委員会開催	年 4 回開催：4/18, 7/18, 10/17, 1/16（4 回）
年度事業報告	１．第 1 回委員会：2024 年 4 月 18 日(木) 開催 (1) 各研究会･分科会の 2023 年度事業報告と 2024 年度事業計画の審議 (2) 次の新規テーマの検討 (3) 調査研究成果の普及･PR に関する検討 (4) 協会関連活動の報告 ２．第２回委員会：2024 年 7 月 18 日(木) 開催 (1) 各研究会･分科会の第 1 四半期の活動状況と今後の活動計画の審議 (2) 新たな都市居住環境に関する情報及び意見交換 (3) 協会関連活動の報告 ３．第３回委員会：2024 年 10 月 17 日(木) 開催 (1) 各研究会･分科会の第 2 四半期の活動状況と今後の活動計画の審議 (2) 2024 年度の上半期事業報告と下半期事業計画の審議 (3) 協会関連活動の報告 ４．第４回委員会：2025 年 1 月 16 日(木) 開催 (1) 各研究会･分科会の第 3 四半期の活動状況と今後の活動計画の審議 (2) 新たな都市居住環境に関する情報及び意見交換 (3) 協会関連活動の報告

都市環境研究会	
	マンションLCP分科会　（村田主査：清水建設）
構　　成	正会員：4社(4名)、協力委員:2名、オブザーバー1名
年度事業計画	1．マンションLCPに関する社会動向等の調査研究 ・自治体のLCPに関する制度･施策等の調査 ・LCPマンション先進事例、企業のLCP支援の先進事例等の調査 ・令和6年能登半島地震でのLCP対応事例等の調査 2．生活継続力評価Webシステム「LCP50＋50」の普及･PR
分科会開催	年5回程度開催：4/23,6/26,9/13,11/18,1/29,3/21（6回）
年度事業報告	1．マンションLCPに関する社会動向等の調査研究 ・防災･LCPに関する先進的取り組みの情報共有 横浜市民防災センター、岡山市防災力向上マンション認定制度、VR消防訓練サービス、『グラングリーン大阪』の電力融通システム、他 ・自治体のLCPに関する制度･施策等の情報収集 ・防災･LCPに関する先進的取り組みの事例を情報共有 ・LCPマンション先進事例、企業のLCP支援の先進事例の情報収集 ・令和6年能登半島地震のマンション被害等の調査 管理会社のコールセンターの受信分析レポートや東京消防庁の現地ヒアリング結果を情報共有 2．生活継続力評価Webシステム「LCP50+50」の普及･PR ・Webシステムの内容チェック･記事更新 ・マンションLCP及び分科会活動成果の情報発信 11/26住総研シンポジウムにて講演(村田主査)、LCP50+50をPR
住宅計画研究会	
	次世代住空間分科会　（小野澤主査：三井住友建設）
構　　成	正会員：8社(9名)
年度事業計画	1．次世代の集合住宅のモデルとなる先進事例の調査研究（視察、文献調査等） ・CLT等の木造木質化、コミュニティの活性化、スマートシティ、グッドデザイン賞等の動向調査を継続 ・注目物件の情報を収集し、完成時に見学会を開催 ・講習会や展示会等にも幅を広げて参加 2．調査報告書の協会ホームページでの公開等を通じた情報共有
分科会開催	毎月1回開催：4/1,5/13,6/3,7/1,9/2,10/7,11/11,12/2,2/12,3/3（10回）
年度事業報告	1．次世代の集合住宅のモデルとなる先進事例の調査研究 ・『サステナブランシェ本行徳』(長谷工コーポレーションが事業主の設計施工案件、RC造、地上5階建)を見学(9/2) ・『セシーズイシイ23』(2024年にグッドデザイン賞を受賞した集合住宅)を見学して「まちの中に暮らす」生活様式を体験(2/12) ・新建築に記載された共同住宅の案件について、資料や映像等を全委員で共有し、今後の見学先候補の検討を継続し、意見交換等を実施 2．上記見学報告書を協会HPに掲載(都市居住研究委員会委員限定で公開)

	都市型住宅分科会　（森本主査：日本設計）
構　　成	正会員：10 社(10 名)
年度事業計画	1．テーマ「超高層住宅を看取る」として、超高層住宅の長寿命、それに関わる価値の維持の面から見た成功例と失敗例やユニークな取り組みについての調査･研究の継続 2．低層高密度共同住宅、木造の町屋･長屋の実態調査と立地都市との関わりあいの調査分析の試行 3．老朽化した高層･超高層住宅の大規模リノベーションの提案に向けての検討 4．共同住宅と非住宅用途相互のコンバージョンにおける課題の調査検討 5．各委員の設計実績をラウンドテーブルミーティング形式で意見交換
分科会開催	毎月 1 回開催：4/11,5/9,6/13,7/11,8/8,9/12,10/10,11/14,12/12,1/9,2/13,3/13（12 回）
年度事業報告	1．継続調査研究テーマ「超高層住宅を看取る」 ・補足調査、事例視察、及び関連情報の取得 ・「新都市ハウジングニュース」へ活動成果について寄稿 2．新規調査研究テーマの情報の収集･検討 ・都市型低層高密度集合住宅 ・木造の長屋、町屋、木造密集市街地（木密） 3．新規調査研究テーマ「古い高層･超高層住宅の大規模リノベーション」に関連しての情報収集 5．各委員が実際に携わった案件によるラウンドテーブルミーティングを順次行い、意見交換を実施 （第 3 回森本主査、第 4 回大塚委員、第 5 回長田委員、第 6 回小多主査） 6．（追加）2024 年 8 月、日本建築学会大会での論文発表(森本主査) 『東京都臨海部に立地する超高層住宅の配置計画における敷地と住棟の振れ角』
エネルギーシステム研究会　（二宮主査：東京ガス）	
構　　成	正会員：13 社(13 名)
年度事業計画	1．住宅分野における IoT 要素を含めた新技術、EV の活用を含めたレジリエンス対策等の最新動向に関する調査･研究 2．新しい省エネ住宅や ZEH に関わる建築、設備及びエネルギーシステム等について、建築物省エネ法の改正を受けての政策動向、市場調査･研究(視察、文献調査等) 3．建築物省エネ法における換気システムの一次エネ評価における、評価合理化対応策の検討
研究会開催	年 4 回程度開催：6/14,9/11（2 回）
年度事業報告	1．脱炭素関連技術の開発に取り組んでいる『横浜テクノステーション』を見学(6/14) ・東京ガス(株)の施設で、持続可能な社会の実現に向けたメタネーション装置、グリーン水素の製造装置、並びに CO2 回収装置などがある。 2．レジリエンスの向上、ビル管理の効率化に取り組んでいる『日立ビルソリューションラボ』を見学（9/11） ・電気自動車(EV)を活用した V2X システムについて、実機を見学し、エレベーターの停電時の挙動、並びに V2X システムによるエレベーターの稼働を体験した。 3．建築物省エネ法における換気システムの一次エネ評価における、評価合理化対応策の検討を実施

長寿命建築システム研究委員会等

組織	 ※網掛けは 2024 年度からの新規組織を示す。

長寿命建築システム研究委員会

（6 月まで　樫村委員長：竹中工務店、7 月から川崎委員長：市浦ハウジング＆プランニング）

構成	正会員：7 社(8 名)、個人会員：2 名
年度事業計画	当協会のこれまでの研究成果を活用し、「建築の長寿命化」という観点で、長期優良住宅等の長寿命建築に関わる技術基盤整備と普及促進に向けた新たなタスクフォース研究を設定して取り組む。
委員会開催	年 2 回開催：6/27,3/27（2 回）
年度事業報告	第 1 回委員会：2024 年 6 月 27 日(木) 開催 （1）各部会及びWGの 2024 年度事業計画の審議 （2）当委員会関連活動の普及推進に関する検討 （3）協会関連活動の報告 第 2 回委員会：2025 年 3 月 27 日(木) 開催 （1）各部会及びWGの 2024 年度事業報告と 2025 年度事業計画の確認･検討 （2）2025 年度の各部会･各 WG の活動における提案 （3）協会関連活動の報告

長期優良住宅等検討部会　（吉田部会長：長谷工コーポレーション）

構成	正 会 員：20 社(20 名)、賛助会員：1 社（1 名） 協力委員：1 名（国土技術政策総合研究所） ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：4 名（国土交通省、都市再生機構、住宅金融支援機構）
年度事業計画	「長期優良住宅」等の関連施策に対応し、協会としてこれまで蓄積した建築･住宅の長寿命化に関する技術･知見を活用し、長寿命集合住宅の普及促進と進化向上を目的とする調査研究を行う。 １．国土交通省依頼による住宅関連施策動向の調査 ２．長期優良住宅の認定要件･技術基準の見直しへの対応 ３．長期優良住宅認定制度採用マンションの事例調査
部会開催	開催なし

技術インフラWG　（山﨑主査：個人会員-国際建設技術情報研究所）	
構　　成	正会員：8社(8名)、個人会員：1名、オブザーバー：1名
年度事業計画	既存集合住宅を含むエリア整備においてホールライフカーボン削減に向けて先進技術を含む脱炭素化･防災性能向上技術を活用したエネルギーシステムを効果的に導入するための既存改修型脱炭素化モデルの検討を目的とした活動を行う。(公募事業に適宜応募) １．既存集合住宅を含むエリアレベルの合理的な省エネ･脱炭素化目標の検討 ２．先進技術を含む脱炭素化･防災性能向上技術及びその導入事例の収集･分析 ３．脱炭素化･防災性能向上技術を活用したエネルギーシステムのあり方の検討 ４．既存改修型脱炭素化モデルの検討
W　G　開　催	年6回開催：5/21,7/30,9/10,11/12,1/21,3/18（6回）
年度事業報告	１．既存集合住宅を含むエリアレベルの合理的な省エネ･脱炭素化目標の検討 ・建築物ホールライフカーボン算定ツール(J-CAT)の算定方法及び集合住宅算定事例分析 ・中規模郊外団地再生整備モデルにおける脱炭素化改修による一次エネルギー消費減量及びLCCO2排出削減量の分析にもとづく省エネ･脱炭素化目標の検討 ２．先進技術を含む脱炭素化･防災性向上技術及びその導入事例の収集･分析 ・省エネ、創エネ技術、CO2固定･貯留技術、防災性向上技術、総合的なZEB化･ZEH化改修技術に分類し、技術･事例を収集･分析 ・既存集合住宅の脱炭素化改修に利用可能な有用技術の性能向上動向、LCCO2排出量原単位、及び利用条件等の現地調査及び利用方法の検討 ３．脱炭素化･防災性能向上技術を活用したエネルギーシステムのあり方の検討 ・太陽光発電、蓄電池、メタネーション都市ガス利用の燃料電池導入による脱炭素化エネルギーシステムの検討 ・太陽光発電、蓄電池、EV、エコキュートの組み合わせによる脱炭素化エネルギーシステムの検討 ４．既存改修型脱炭素化モデルの検討 ・既存集合住宅エリア改修モデルを利用した脱炭素化改修評価にもとづく既存集合住宅のホールライフカーボン削減手法の検討 ・既存SI型集合住宅を対象とした既存改修脱炭素化モデルの検討･提案
耐震性能に基づく性能表示検討部会　（楠部会長：東京大学地震研究所　教授）	
構　　成	正 会 員：1社(1名)、学識経験者等：8名（東京大学,建築研究所他)、 協力委員：3名（国土技術政策総合研究所)、オブザーバー：4名（国土交通省)、 共同事業事務局：3名（堀江建築工学研究所)
年度事業計画	『大規模地震発生後のRC造共同住宅の継続使用性評価手法に関する検討』をテーマとし、『応答に基づく損傷制御性等の評価手法技術の構築とその普及の検討、及び地震後継続使用性能の評価基準整備に資する検討』を事業名として活動する。(採択事業) １．地震時の部材の損傷低減に効果のある新技術を対象に構造実験を実施することで、当該技術を使用したときの建築物の応答に基づく損傷制御性等の有効性を検証し、評価方法を構築する。 ２．上記１．の結果に基づき、評価方法基準等への地震後継続使用性能の評価基準の整備に資する技術資料をまとめる。
部　会　開　催	年3回開催：7/8,11/20,2/6（3回）

年度事業報告	『大規模地震発生後のRC造共同住宅の継続使用性評価手法に関する検討』に応募し、3/29付で採択、4/12付にて補助金額(3,000万円)交付決定 ・(株)堀江建築工学研究所(共同事業者)、新都市ハウジング協会、(国研)建築研究所の三社間で共同研究協定書を締結 ・第1回部会(7/8)で、採択された検討内容について方向性を検討、検討項目の整理・割振り、検討計画を作成 ・検討計画に沿って以下のとおり実施した。 1．(1) 検討項目等整理〔以下(2)～(4)〕、技術的知見の収集 (2) 応答に基づく損傷制御性等に有効な新技術の抽出 ・新技術の一例として、会員各社の制振ダンパー事例の収集 (3) 実験計画、試験体製作及び実験の実施 ・SWG参加会員より意見聴取 ・M13部材実験及びRC架構実験に用いる方立壁タイプ制振ダンパーの設計 ・制振ダンパーの部材実験の実施 ・損傷低減効果を確認するための制振ダンパーを組み込んだ三層実大架構試験体の製作(次年度当初に実験実施) (4) 既往の構造計算プログラム調査及び応答に基づく損傷制御性等の有効性の検証、評価方法の検討 ・構造計算プログラム(保有水平耐力計算法プログラム)メーカーとの協議 ・応答評価Webシステムの改良仕様の検討 ・現状の一貫構造プログラムから出力する損傷評価用データの検討 2．上記計画に従って、成果を取りまとめて国交省へ報告書を提出（締切2/26） (1) 10/29　M13調査報告書中間報告提出 (2)　3/14　M13調査報告書最終提出 (3)　3/18　補助金確定通知書受領
超高層住宅長寿命化ＷＧ（齋藤主査：住総研）	
構成	委　　員：8名（正会員,個人会員　他） 協力委員：3名（国土交通省、国土技術政策総合研究所、） オブザーバー：14名（正会員、学識経験者 他）
年度事業計画	既存超高層住宅の長寿命化のための現状分析及び改修課題の検討を行う。 1．R6年度補助事業の公募を確認し、提案書類の作成･提出（採択事業） 2．対象となる既存案件のデータベースの作成 3．構造･設備等による分類と課題の検討 4．共用部の施設による分類と課題の検討 5．外装仕上げ材の課題検討と長寿命化につながる材料の検討 6．成果報告のまとめと水平展開の実施
ＷＧ開催	年12回開催： 4/24,5/22,6/19,7/17,8/21,9/18,10/16,11/20,12/18,1/15,2/19,3/19（12回）
年度事業報告	1．R6年度補助事業の公募を確認し、提案書類の作成･提出 『国土交通省 令和6年度住宅ストック維持･向上促進事業に係る調査･評価事業（うち、政策課題の調査に係る事業)』に応募し4/30付で採択、5/21付にて補助金額(640万円)交付決定 2．対象となる既存案件のデータベースの作成 ・補助事業分400件のデータベース作成、設備の課題整理

年度事業報告	３．構造･設備等による分類と課題の検討 ・UR 中部支社に超高層案件の管理･修繕対応についてヒアリングを実施、都内超高層案件の情報提供による長期修繕工事に伴う課題の抽出を行った。 ４．共用部の施設による分類と課題の検討 ・3 件(東京･名古屋･千葉)の超高層住宅で実態調査を検討、依頼及び調査アンケート資料の作成 ・再開発事業において、情報提供による実態課題の抽出 ・10～11 月に超高層事例調査を実施した。 ５．外装仕上げ材の課題検討と長寿命化につながる材料の検討 ・調査データの分析及び抽出された課題抽出について試案を作成し協議 ・構造･共用部施設･外装･仕上げ材についての課題整理を行った。 ６．成果報告のまとめと水平展開の実施 ・実態調査結果及びデータ･資料の分析と課題抽出 ・補助事業報告書作成 『既存超高層住宅の長寿命化のための、現状分析及び改修課題の検討』 ・次年度継続事業案の作成 ※（1）2/10 事業完了実績報告書提出 （2）3/3　補助金交付額確定通知書受領
木質ハイブリッドＷＧ（増田主査：清水建設）	
構成	正会員：7 社(11 名) 協力委員：3 名(学識経験者) オブザーバー：1 名（国土技術政策総合研究所）
年度事業計画	環境負荷の低減、国土の保全の観点から木質材料の有効な活用が望まれている。中高層木造建築物の建築は未だ低調であり、技術開発による更なる普及促進が求められている。他方で、解体された木造建築物から採取される木材が再利用されることは少ない。カーボンニュートラルへの更なる貢献のため、既存建築物にストックされている木材を再利用する方法も検討する。(採択事業) １．定尺寸法木材を用いたロングスパン重ね梁の開発 ２．要素実験、実大実験による重ね梁の構造性能評価 ３．既存建築物のストック木質材の再利用に関する研究
ＷＧ開催	適宜開催：6/3,7/8,8/9,9/17,10/24,11/28,12/16,1/20,3/3（計 9 回）
年度事業報告	『令和 6 年度住宅･建築物カーボンニュートラル総合推進事業』として 3/29 付で採択、4/24 付で補助金額(2,370 万円)交付決定 １．実大部材を使用して大断面･ロングスパンの重ね梁のプロトタイプを開発 ２．重ね梁のかなめとなるせん断ズレの抑制のための技術的知見ならびに施工性・ローコスト化のための実施データを取得 ３．ストック木質材再利用について、文献･法令整理ならびに暴露実験を開始 ※（1）3/19 事業完了実績報告書提出 （2）4/9　補助金交付額確定通知書受領